

2015年1月号

1月15日(木)発行

釧路湿原国立公園

温根内ビジターセンター

月刊 **温根内通信** No. 220



明けましておめでとうございます

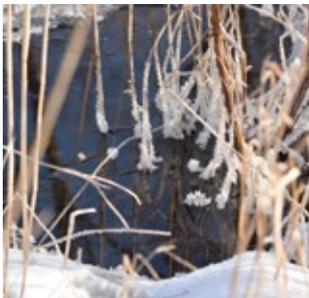
本年もよろしくお願いいたします。

12月16日未明からの暴風雪で始まった今年の雪のシーズンは、荒れ模様の冬を予感させましたが、その後はまとまった雪がなく、穏やかな天気が続いています。1月に入ると気温の高い日が続き、どんどん雪が解けています。やはり例年通りの雪の少ない冬になりそうです。

☆☆☆温根内ビジターセンター 探勝木道周辺の自然情報☆☆☆



～温根内探勝木道周辺の自然～



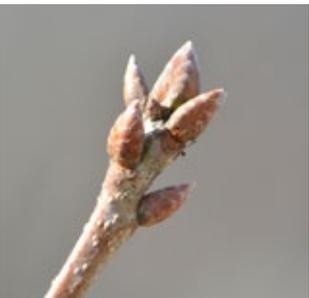
【冬でも凍らない湧水】
 鶴居軌道跡沿いには無数の湧水があり、マイナス20℃になる真冬でも凍りません。霜の花や動物が見られるなど冬の温根内では注目の場所です。



【イソツツジ (花芽)】
 ツツジ科 磯躑躅
 ミズゴケ湿原の雪の間から見られます。先端にうろこ状の芽鱗に包まれた花芽があり、今年の6月に白い花を咲かせます。



【ハッコヤナギ (冬芽)】
 ヤナギ科 跋扈柳
 日当たりの良いところにあるハッコヤナギの冬芽は芽鱗がとれてふわふわの花序になっているものがあります。花が咲くのは4月です。



【ミズナラ (冬芽)】
 ブナ科 水楡
 どんぐりが実るミズナラの冬芽はたくさんの芽鱗を身にまとっています。寒い冬をしのぐため、たくさんの布団をかぶっているように見えます。



【ネズミ類の足跡】
 小さなネズミ類の足跡は、二つ並んだ小さな足跡が点々と続き、その間に細い線が残ります。これは尻尾を引きずった跡で、雪が固くなると残らない場合があります。



【キタキツネの足跡】
 イヌ科 北狐
 指の肉球の跡が4つ残り、爪の跡も残ることが多いです。湿原内を点々と続き、雪を掘って食べ物を探した跡も見られます。

○表紙の写真 上: 雪のミズゴケ湿原 中右: オオワシ 中左: タンチョウ 下: タンチョウの足跡

～温根内探勝木道周辺の野鳥～

木道周辺で野鳥がよく見られるのは、ビジターセンター周辺と鶴居軌道跡の沢沿い、木道の上空です。ビジターセンターでは無料で双眼鏡を貸し出ししています。お気軽にご利用ください。



【トラツグミ】 虎鶉
ヒタキ科 夏鳥（一部越冬）
夏の夜に鳴く声は鶉（ぬえ）の声だと言われていたトラツグミは温根内には冬にやってきます。鶴居軌道沿いで見られます。



【マヒワ】
アト科 真鶉 漂鳥
留鳥ですが、夏に山で繁殖し、冬には平地へ降りてきます。群れで移動し、ハンノキやケヤマハンノキの実を食べる姿が見られます。



【セグロセキレイ】
セキレイ科 背黒鶺鴒
夏鳥（一部越冬）
北海道では夏鳥ですが、温根内には冬にやってきます。凍らない湧水地周辺で採餌している姿が見られます。



【カシラダカ】
ホオジロ科 頭高 旅鳥
秋から冬にかけて南へ移動する途中で温根内周辺を通過します。春になると今度は北へ帰る途中に温根内周辺で見られます。

○温根内探勝木道周辺で観察された鳥（12月15日～1月14日）※和名は日本鳥類目録第7版の順
■タンチョウ■タシギ■トビ■オジロワシ■オオワシ■ノスリ■ヤマセミ■コゲラ■オオアカゲラ■アカゲラ■ハシボソガラス■ハシブトガラス■ハシブトガラ■シジュウカラ■ヒヨドリ■エナガ■ゴジュウカラ■キバシリ■ミソサザイ■トラツグミ■ツグミ■カヤクグリ■セグロセキレイ■マヒワ■カシラダカ

☆☆コラム「温根内のエゾシカ ～人気者？それとも厄介者？～③」☆☆

温根内ビジターセンター指導員 本藤泰朗

私がここで働き始めてもうすぐ2年になります。それまでは釧路湿原のエゾシカの食害という主には冬の話で、樹木の皮や枝を食べることによる樹木の枯死や、ササを食べることによる林床の植生変化、雪の間から露出する少数の植物への食害などを考えていて、夏の間は湿原から離れ、農作物や牧草などが被害の対象で、湿原周辺の野生植物に関しては、多少の被害はあるものの、それほど深刻な状況ではないと思っていました。

その認識を改める衝撃的な事件が、一昨年の夏に起こりました。

ビジターセンターの裏には湿原周辺特有の広葉樹林が広がっていて、そこでは毎年夏にオオウバユリの見事な群落が見られます。2013年もオオウバユリは7月半ばに咲き始め、数日のうちに数百株が咲き乱れ、辺り一面にユリの香りが広がる見事な群落になりました。しかしその数日後、群落は姿を消してしまいました。誰かが盗掘したのかとも思いましたが、切り口の様子からエゾシカによるものだったということが分かりました。それまではこのような徹底した食害はなかったそうで、2014年はオオウバユリの花が咲く前にほと

んどが食べられてしまい、結局花の群落は見られませんでした。



湿原内も例外ではなく、昨年夏にサワギキョウの大群落が数日でなくなりました。食害は幅広い種に及び、ドクゼリやバイケイソウなど、毒を持つ植物でさえ例外ではありません。その中で「これはおいしい!」と思った種は徹底的に食べてしまうという具合です。今のところそのような徹底した食害を確認したのはオオウバユリとサワギキョウだけですが、ミツガシワやヒメカイウも大きな被害を受けており、温根内では数少ないエゾリンドウやトモエソウの被害もあり、そのほかかなりの種で食害を確認しています。すぐに一つの種が絶滅してしまうとは考えられませんが、毎年繰り返す相当な食害を受け続ければ当然姿を消してしまいます。食害だけでなく、



2014.8.23 2014.9.3

植生への踏圧や糞による富栄養化も深刻な問題です。長い目でみると木道からの景色も変わってゆくでしょう。

湿原において植生の変化というものは常に起きています。数年前までミツガシワの大群落が見られた場所が現在はツル



ルスゲに覆われていますが、自然の遷移によるものでしょう（ひょっとしたら間接的に何か人為的な要因が絡んでいるかもしれませんが…）。しかしエゾシカ

の増加は明らかに人為的なもので、それが原因で湿原の植生が変わってしまうのなら、何か防ぐ方法を考えなければなりません。

国による釧路湿原国立公園のエゾシカ対策が始まりました。現在、専門家による国立公園内のエゾシカの行動調査や植生調査、国指定鳥獣保護区内での捕獲実験など（ここ温根内でも調査が行われています）、エゾシカによる被害を

把握し、有効な対策が練られているところです。釧路湿原のように湿原と周辺の丘陵地を広範囲に移動するエゾシカの個体数管理や、侵入を防止することは相当困難なことだと思いますが、今後の対策に期待しましょう。

人間が野生生物の世界を管理するのはおこがましいことですし、自然は決して思い通りにはならないと思いますが、もともと人間がまいた種なので、責任をもって元通りにする努力はするべきですね。



ヒメカイウの食害

むかしむかし、私たちの先祖は、人間による乱獲と豪雪により、一時は絶滅寸前になりました。しかしその後反省した人間により手厚く保護され、天敵のエゾオオカミもやっつけてくれました。住むところは減りましたが、栄養豊かでおいしい農作物に囲まれ、冬も暖かくなり、仲間も増えて暮らしは楽になりました。最近は猟師に撃たれたり、罠にかかったり、車にぶつかる仲間も増えて、人間からの風当たりが強くなりましたが、釧路湿原に逃げ込めば追っては来ないし、食べ物もあります。観光客も私たちを見て喜んでくれるので、ここはとても暮らしやすい場所です。 [おわり]

☆☆☆☆イベントのご案内（2月）事前の申し込みが必要です☆☆☆☆

○温根内ビジターセンター ⇒お申し込み☎0154-65-2323
♪歩くスキーで湿原ハイク（釧路市立博物館共催）
〔日時〕2月8日（日）10:00～12:00 〔定員〕20名（小学生は保護者同伴）
〔参加費〕無料 〔場所〕温根内ビジターセンター
温根内木道周辺を歩くスキーで散策しながら、生き物の痕跡や越冬方法などを観察します。

○塘路湖エコミュージアムセンター（あるこつと）⇒お申し込み☎015-487-3003
♪冬の塘路湖畔散策
〔日時〕2月14日（土）10:00～12:00 〔定員〕10名（小学生は保護者同伴）
〔参加費〕無料 〔場所〕塘路湖エコミュージアムセンター
冬の塘路湖周辺はどうなっているのでしょうか？氷の上を歩いて散策してみよう。

今年も歩くスキーとスノーシューの無料貸し出しを始めました！



雪の状態やおすすめコースなどはお気軽にスタッフまでお問い合わせください。

月刊 温根内通信 No.220
発行：釧路湿原国立公園 温根内ビジターセンター
〒085-0036 北海道阿寒郡鶴居村字温根内
Tel：0154-65-2323 Fax：0154-65-2185
E-mail：ovc@hokkai.or.jp
ホームページ：http://city.hokkai.or.jp/~kk946/
Facebook：https://www.facebook.com/Onnenai.VC
開館時間：10:00～16:00（4月～10月は17:00まで）
休館日：毎週火曜日（12/29～1/3は休館） 入館無料